

# 明治大学大学院経営学研究科 (経営労務プログラム) 募集のご案内

平成20年度より、明治大学大学院経営学研究科に経営労務プログラムが開設され、連合会より、同プログラムに社会保険労務士を推薦することとしております。

同プログラムへの推薦により、これまでに130名の社労士が明治大学大学院に入学し、修了した方にはMBA(経営学修士)が授与されています。

令和6年度入試におきましても、下記のとおり募集要項が定められましたので、ご案内いたします。

## 募集要項 (要約)

### 1. 明治大学大学院経営学研究科 (博士前期課程) 概要

- (1) 大学院所在地  
東京都千代田区神田駿河台1-1  
・JR中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅 下車徒歩3分  
・東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅 下車徒歩5分  
・都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線／神保町駅 下車徒歩5分
- (2) 授業時間帯  
原則、平日(月曜日～金曜日)夜間・土曜日  
※平日昼間開講の講義も履修可能
- (3) 修了要件  
①2年以上在学し、所定の研究指導を受けていること。  
②必修10単位含む36単位以上修得していること。  
③成績の平均がB(GPA2.00)以上であること。  
④修士論文(又は課題研究レポート)の提出及び合格すること。
- (4) 学費等(初年度)

入学金	200,000円
授業料	560,000円
教育充実料	60,000円
その他	3,000円
合計	823,000円
- (5) その他  
①明治大学大学院の募集要項は、明治大学大学院HPからダウンロードしてください。  
[https://www.meiji.ac.jp/dai\\_in/bosyuyoko-kakomon/yoko.html](https://www.meiji.ac.jp/dai_in/bosyuyoko-kakomon/yoko.html)  
②入学検定料 35,000円

### 2. 応募要件

以下の3つの要件すべてを満たす場合、応募することができます。

- (1) 社会保険労務士として登録していること。
- (2) 出願時まで3年以上の人事労務管理に関する実務経験を有する者であること。
- (3) 明治大学大学院に入学する時点で、22歳以上であること。

### 3. 募集期間

令和5年7月18日(火)から令和5年9月4日(月)

### 4. 入試説明会

令和5年7月14日に実施した入試説明会の動画を連合会ホームページ会員ページにて配信いたします。入学を検討中の方はもちろん、これから検討したいという方もご視聴ください。

- (1) 配信期間 (予定)  
令和5年7月28日(金)～令和5年9月4日(月)
- (2) 説明会内容 (予定)
  - ①全国社会保険労務士会連合会からの挨拶
  - ②明治大学大学院経営学研究科長からの挨拶
  - ③経営労務プログラムの入試・カリキュラムについて
  - ④人事労務系教員紹介・挨拶
  - ⑤経営労務プログラムで学んだ経験について (修了生から)
  - ⑥教育補助講師紹介・挨拶
  - ⑦公開講義の案内
  - ⑧グローバルフロントの案内

### 5. 提出書類

- (1) 職務経歴書
  - ① 所定の様式を使用してください。
  - ② 所定の様式は、連合会ホームページの会員ページ お知らせ「令和6年度明治大学大学院経営学研究科(経営労務プログラム)募集及び入試説明会動画のご案内」よりダウンロードできます。  
なお、A4版でプリントアウトし、提出してください。
- (2) 課題レポート
  - ①テーマ : 下記1および2のいずれかから1つを選択してください。
    1. リスキリングに関する労務管理のあり方について、社会保険労務士の視点であなたの考えを述べてください。
    2. 仕事と育児・介護の両立支援に必要な企業の労務管理上の取り組みについて、社会保険労務士の視点であなたの考えを述べてください。
  - ②文字数 : 3,000字程度 (2,700字～3,300字)  
※句読点は文字数にカウントしてください。  
※参考文献は必ず明記してください。なお、文末に参考文献を列記する場合、文字数のカウント外としてください (文末に文字数を明記してください)。
  - ③提出形式 : パソコンで作成し、A4版・縦方向、横書でプリントアウトし、提出してください。
  - ④その他 : レポートは、1行目に所属会及び氏名、2行目に選択したテーマ、その後1行あけて、4行目から本文を書き始めてください。
- (3) 志望理由書 (令和6年度入試より追加)
  - ①明治大学大学院経営学研究科において、研究したいテーマやそのテーマを選んだ理由を明確に示してください。
  - ②文字数 : 500字以上1,000字以内  
※句読点は文字数にカウントしてください。  
※文末に文字数を明記してください。
  - ③提出形式 : パソコンで作成し、A4版・縦方向、横書でプリントアウトし、提出してください。  
※右上に氏名を記載してください。

## 6. 書類提出先

所属の都道府県社会保険労務士会

## 7. 提出方法

- (1) 所属の都道府県社会保険労務士会に持参  
各都道府県社会保険労務士会の業務時間内に持参してください。
- (2) 所属の都道府県社会保険労務士会に郵送  
特定記録郵便もしくは簡易書留扱いで郵送してください。  
令和5年9月4日(月)必着です。

※提出書類に不備があった場合は受け付けられません。

## 8. 連合会における推薦者の決定

- (1) 都道府県社会保険労務士会会長の推薦に基づき、連合会に設置された推薦委員会において、提出書類を審査のうえ決定されます。
- (2) 推薦に関する結果は、連合会から直接応募者に通知します。
- (3) 推薦者の決定に関する照会には応じられませんので、あらかじめご了承ください。

## 9. 出願

- (1) 連合会において推薦が決定した場合、別途、明治大学大学院に出願していただくこととなります。
- (2) 明治大学大学院への出願期間は、令和5年11月26日(日)～令和5年12月1日(金)となります。

## 10. 明治大学大学院における合格者の決定

- (1) 面接試問が明治大学大学院において行われます。
- (2) 面接試問日は令和6年2月21日(水)、合格者の決定日は令和6年2月24日(土)です。詳細は明治大学大学院経営学研究科の募集要項をご確認ください。
- (3) 合格に関する通知は、明治大学大学院から直接合格者に行われます。

お問い合わせ先 全国社会保険労務士会連合会 社会保険労務士総合研究機構 TEL 03-6225-4870

## よくある質問 (FAQ)



**Q** 仕事が忙しいため、2年間で単位を修得した上で、修士論文、または課題研究レポートを書き上げる自信がありません。必ず2年間で修了しなければいけないのでしょうか。



**A** 必ずしも2年間で修了する必要はありません。最大で4年間在籍可能です。過去のケースでは、入学当初から3年計画で入学された方もいらっしゃいました。ご自身の状況に応じて柔軟な学び方が可能です。

また、大学院入学前に「科目等履修生制度」を利用して、入学後の負担を減らす方もいらっしゃいます。当該制度については下記をご確認ください。

<科目等履修生制度について>

大学院で開設されている特定の科目を履修し、一定の単位を修得することが可能です(学士の学位を有する方のみ)。また、本制度で修得した単位は、大学院入学後に「単位認定申請」することにより、大学院修了に必要な単位として認定されます。



**Q** 大学を卒業してからかなりの年数が経過しているため、講義についていけるのか不安です。大学院の授業を体感できる方法などはありませんか。



**A** 上記「科目等履修生制度」の他、例年9月下旬～10月上旬に開催される公開講座に参加することにより、大学院入学前に授業の雰囲気等を体感し、不安を払拭した上でチャレンジされる方もいらっしゃいます。詳細につきましては、明治大学大学院経営学研究科までお問合せください。



**Q** 大学在学時、卒論を書いた経験がない方、卒論を書いてから年数が経過している方、あるいは、卒論を書いた経験はあるが経営学とは遠い分野である方をサポートしていただける制度はありますか。



**A** 本プログラムでは、研究活動をサポートするための**教育補助講師**（下記参照）が置かれ、自学・自習のための支援や論文執筆に関わる助言を行います。不安を払拭しながら研究に臨める体制が整えられています。

## 社労士院生の研究活動に対するサポート体制

—教育補助講師による研究支援体制—

【入試説明会における明治大学大学院経営学研究科資料より抜粋】

経営学研究科に入学した現役社労士は、2年間の研究活動を通じて修士論文または課題研究レポートをまとめて提出しなければなりません。実務志向の考え方を学術研究志向に転換させるのは、誰でも大変に辛いことです。経営労務プログラムは、修士論文を作成する過程において現役社労士が直面する困難を想定し社労士の研究活動をサポートするための教育補助講師体制を整えています。

1. 授業補助
2. 教材作成
3. 授業のフォローアップ

担当教員の指示に従って、授業のフォローアップを行います。このフォローアップとは、やむをえない事情で授業を欠席した院生に対し、教材を配布したり、授業の概要と要点について解説したり、また、必要な場合には、必読すべき文献を紹介します。

4. 学習への支援・指導

担当教員の指示に従って、院生個人の自学・自習に対する支援と指導を行います。この場合の“支援”とは、書誌の利用法、文献検索法、図書館活用法、研究に必要な文献収集、情報収集に関わるものを指しています。また、この場合の“指導”とは、修士論文執筆に必要な「執筆要領」に関わる助言、場合によっては、修士論文作成上の注意などを指しています。

〈 科目等履修生制度・教育補助講師等に  
関する問い合わせ先 〉

明治大学大学院経営学研究科  
東京都千代田区神田駿河台1-1 TEL: 03-3296-4705

## あたたかな学びの場

早川 佐知子  
(明治大学経営学部准教授)



『月刊社労士』をご愛読のみなさま、こんにちは。明治大学大学院の経営労務プログラムを担当することになってはや4年半が経とうとしております。こちらの機関誌に執筆させていただくのは2021年以来3度目となるのでしょうか。今回は、社労士大学院生の日常を描きながら、プログラムをご紹介できればと思っております。

大学院に入学すると、いずれかの研究室に所属することになります。現在、私の研究室には5名の社会保険労務士の方がいらっしゃいます。このような主たる担当教員（いわゆる指導教授）と、所属院生、教育補助講師とで修士論文の完成を目指す授業は、演習（私の場合は企業内教育演習）と呼ばれます。それぞれの大学院生に修士論文の構想や途中経過を報告していただき、みなで意見をぶつけ合うというものです。自分の作り上げてきた世界が、研究室のメンバーや指導教授にどのように評価されるのか、それはドキドキするようです。ですが、1人では見つけることできなかった視点を指摘してもらうことができるのは、本当によい機会となります。

演習では、論文執筆の方法論についてのレクチャーを行う場合もあります。論証の方法にはどのようなタイプがあるのか、どのように論旨を展開させてゆくのがよいのか、悪い癖を直す方法などなど、こちらでも学ぶことは多岐にわたります。社会人の大学院生の場合、それまで生きてきた人生の中で経験されたこと、そこで培った信念などが研究にも反映されます。先日の演習の授業では、それぞれの研究のアイデンティティとなるものをじっくりと掘り下げ、語り合っていたところ、すっかり時間を忘れてしまうほど夢中で議論をしてしまいました。経験豊かな社会人の方々の深い人生観をお聴きできることは、このプログラムを担当していてよかったと心から思える瞬間の一つです。

こういった研究室単位での演習のほかに、大学院には特論と呼ばれる多彩な授業があります。こちら

は所属研究室や学年に関わらず、誰でも、興味のある学問を学ぶことができますので、いわば視野を広げるための授業といったところでしょうか。

私が担当しておりますのは、「人材育成特論」と「人的資源開発特論」で、今学期は“能力主義”と“ジョブ型雇用”という2つのテーマについて学びました。テキストを基本としながら、メンバーが提案したテーマについてディスカッションを行います。自身の研究から深めた知識、日頃の実務から感じていたこと、プライベートでの経験などなど、話題は尽きません。あっという間に100分が過ぎ、もっと話したかったですねと言いながら授業を終える日がほとんどとなります。

大学院にいらっしゃる社労士の方々はバイタリテイがあって勤勉なのはもちろんのこと、とても利他的な方が多いと感じます。だからこそ授業はいつも和気藹々としていますし、ご自身が修めた学びを現場に還元したいと力を尽くすことができるのでしょう。仕事とも職場とも違う、いわば知的なサードプレイスのような場所で、肩書きから解放された学びの時間を私たちとご一緒しませんか。

*Profile* 1977年山梨県生まれ。2013年、明治大学大学院経営学研究科博士後期課程修了(博士(経営学))。広島国際大学医療経営学部を経て、2019年より明治大学経営学部公共経営学科へ。専門は医療マネジメント、人事労務管理。  
著書：『アメリカの看護師と派遣労働—その歴史と特殊性—』（淡水社）

## 大学院における 研究成果と社労士業務

佐藤 真由美  
(東京会)



### 1. 入学の経緯

社労士試験合格後、いつかは大学院で学びたいと漠然と思っていました。けれども毎日が、職場と家との往復で、日々があっという間に過ぎてしまいました。いつか大学院に行きたいという希望は、到底実現しそうな夢になりつつありました。しかし、そんな毎日を送りながらも、少しずつ社労士会の研修や、(独)労働政策研究・研修機構の講習を受講するうちに、「もっと勉強したい」「もっと労働分野について知りたい」という気持ちが芽生えたのです。「いつか大学院に行きたいでは、実現しない。いつかではなく、今、チャレンジしよう」と経営労務プログラムに応募することを決意しました。

### 2. 大学院生活と研究成果(修士論文)の概要

2021年4月に明治大学大学院に入学してからの日々は、自身の予想をはるかに超えました。1年次は、まだコロナ渦中の時期でしたので、講義はオンラインと対面の半々でした。最初は、毎週の講義の課題をこなすのに手一杯でしたが、大学院での学びに今までの資格試験の勉強と違う手ごたえを感じました。

会社が終わってからの講義の合間や、土曜日の午前中の明治大学図書館での下調べの日々が、今では懐かしく感じます。

明治大学の教授陣は、みなさん温かく、優しくそして適確なアドバイスをいただきました。特に、ゼミの早川佐知子先生は、ともすれば自身の研究テーマについて、表面的な見解に偏ってしまった所を、論理の奥深く研究するように導いてくださいました。論文の作成は、先行研究で左右されると言われました。研究領域は、現在勤務している公益法人が推進している「企業における障害者雇用」にしました。研究領域から、研究テーマを絞ります。多数の文献を読み、研究の目的とリサーチクエスチョンを明確にします。私の場合は、障害者雇用の歴史から文献

を読みはじめ、あちらこちらの領域に広がりすぎてしまい、修士論文のテーマが決まったのは、何と、2年次の6月末でした。ゼミでの忌憚のないアドバイスを参考に、先行研究と、フィールドワークによる観察から、発達障がいのある方の職場定着に研究を絞りました。2005年に発達障害支援法が制定されてから、ようやく発達障がいのある方の支援の法制度が整備されたものの、一般企業、特に中小企業における職場定着の研究は、まだまだあまりされてない状況でした。研究手法はインタビューを選択し、中小企業で、発達障がいのある方を採用してキャリアを開発している一般企業3社に対して半構造化インタビューを実施しました。結果を①障害特性とジョブマッチング、②合理的配慮、③上司・同僚の理解に要素を分け整理しました。

### 3. 大学院修了が社労士業務に及ぼした効果

明治大学大学院の2年間は、アカデミックな理論を探究する面白さを教えてくれました。加えて、明治大学大学院では、先輩、後輩が非常に温かく、家庭的な雰囲気で大変お世話になりました。入学年では、コロナ渦中でしたが、2年次からは、大学院在校生の勤務先の訪問ツアー、野球部の優勝祝賀会と楽しいイベントもあり、「よく学び、よく遊ぶ」楽しいひと時を過ごさせていただきました。

おりしも、大手400社は2023年3月期決算から「人的資本開示」が義務化され、企業価値を決める評価として人材投資が大きな注目を集めています。今後は、経営労務プログラムでの研究を基に、企業での多様な人材の能力開発について事業主の困りごとにアドバイスできる社会保険労務士を目指して研鑽を重ねたいと思っています。

*Profile* 専業主婦から、数種類のパート、アルバイトから人材派遣会社経理部勤務、介護離職後、派遣で働きながら社労士試験の勉強を始める。2013年試験合格。物流業管理部を経て、現職の公益社団法人の事務局職員として勤務する。2023年3月明治大学大学院経営学研究科修士(経営学)、2023年5月に勤務先の理解のもと社会保険労務士事務所佐藤ヒューマン・リソースコンサルティングオフィスを開設